

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 認定こども園

第三者評価の判断基準

事業所名 有明あおぞら認定こども園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 全体的な計画の作成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて作成している。 ■ 2 全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて作成している。 ■ 3 全体的な計画は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して作成している。 ■ 4 全体的な計画は、保育に関わる職員が参画して作成している。 ■ 5 全体的な計画は、定期的に評価を行い、次の作成に生かしている。 	○保育理念に基づいて作成された全体的な計画は、毎年保育に関わる職員で話し合い、検討して、作成し直しています。行事や期ごとに職員全員で反省し、直しが必要などところを出し合い、次年度の計画の作成に活かしています。全体的な計画を基に園目標や各年齢の年間計画を作成し、それを基に、活動計画も家庭の状況や地域の実態、子どもの発達の姿や興味などを抑えながら作成しています。園目標は各クラスに提示しており、常に保育士や保護者等にも意識付け出来るようにしています。保育園は様々な雇用形態の職員がいる職場です。どんな雇用形態の職員でも、職員全体が常に基本に立ち回り園目標を意識しながら保育を進めています。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<input type="checkbox"/> 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 <input checked="" type="checkbox"/> 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 9 内装等には、木材を利用している。 <input checked="" type="checkbox"/> 10 一人ひとりの子どもの、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。	<p>○園内は広い廊下を利用し、子ども達がのびのびと遊べるようなコーナー作りがされており、部屋の中を静かに遊べる場所、テラスを活動の場所に使用するなど施設を十分に活かして生活できるようにクラス毎に工夫されています。広い園庭を利用し、稲作りをしたり、池のような水たまりを作り遊べるような環境もあり、戸外遊びが大好きな子ども達に育っています。また、子どもにとって最善の環境を整えようと季節や子ども達の状態によって保育士が常に工夫をし、努力をしています。自然豊かな環境を活かして木の実や草花、木の葉などを子ども達と集め関心が持てるようにし、保育に活かしています。保育所内外の設備の衛生管理を職員全員で努めていて、どこも整理整頓されていました。トイレも掃除や消毒を丁寧ににするなど清潔感がありました。</p> <p>○異常気象と言われる昨今、冷房や暖房器具を適切に使用することが必要です。これから子ども達も職員も快適に過ごせるよう温度、湿度の管理をしていってください。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	■	13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	○年齢に合わせて一人ひとりの子ども達の様子や思いに丁寧に寄り添い、年齢やその子なりの発達を保障しようと（絵画制作が苦手なクラスは参観日に大好きな保護者を見て描くというような活動を取り入れた）、子どもの様子をよく観察して入園当初の体の動きやバランスを大切にす時期と指先の感覚を育てるための環境を整える時期を見極める等）職員で話し合いながら、努力や工夫をしています。三歳以上児は2クラスずつあるので常に連携を持ちつつ、子ども達が戸惑ったり困ることが無いように協力し合っています。子どもが主体的に活動できるように、保育士が穏やかに子どもを受け止め、自分からやりたいという気持ちが表現できるようになって欲しい、それを保育士が受け止めて、実現できるようにしたいという思いを持って日々の保育を進めている様子がありました。
	■			14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。		
	■			15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。		
	■			16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。		
	■			17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。		
	■			18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。		
		③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	□	19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。	○様々な家庭環境や生育歴を持って入園してくる子ども達一人ひとりを受容し、年齢なりの基本的な生活習慣が無理なく身につけられるように配慮しています。発達の個人差がある中で、子どもの気持ちや意欲を引き出し「家庭の調べ」を利用したり保護者と連絡を密に取り、家庭と協力し合い自立を促しています。また、活動と休息のバランスが保たれるように生活の流れを大切にしています。 ○こだわりがある子や、活動によっては、子どもの意向に沿いながらも手伝ってしまうこともあるようですが、保育園での活動や生活が充実していれば、楽しみながら自立を促していけるでしょう。
	■			20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。		
	■			21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。		
	■			22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。		
	■			23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			<p>④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	<p>b)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 □ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○全職員が戸外遊びの時間を大切にしております。十分な時間を確保するようにしています。遊びの中で、安全面に配慮しながらも子ども達同士のやりとりを大事にし、人間関係が育ち友だちと協力し合っって遊びを作り出せるように見守っています。また、必要な時には適切な援助が出来るようにしています。未満児用の砂場があったり年齢に合わせた遊具があり、小さい子ども達も安心して遊べるようになっていきます。移住者の方が多い安曇野市では「地域おこし協力隊」の方を積極的に受け入れたり、地域のお年寄りの方々との交流もあり、広い園庭を有効に使い園庭に“田んぼ”を作り年長児と共に稲作をするなど保育士だけでは出来ない経験、指導できる方がいるからこそその貴重な体験を積んでいました。収穫したお米を園でクッキング保育に活かしていくとの事です。協力隊の方々や畑作りも行い給食にも取り入れ、子ども達も楽しみにしています。地域では稲作が盛んに行なわれていて、焼き芋会の時には籾殻を寄付していただきそれを使い芋を蒸すので美味しい焼き芋になるということです。地域にある施設からポニーも1年に一度遊びに来てくれ、年長児は乗馬の経験もしています。「信州山ほいく」の認定を受け、園の周りの環境を活かして、園内にいるだけでは経験の出来ない自然豊かな中での保育を進めています。また、四季折々の自然物を使った手作りおもちゃを年齢に応じて用意したり、子ども達と一緒に制作し、それを自由に使い子ども達は喜んで遊んでいます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			<p>⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○家庭から離れ、長時間保育園で過ごす0歳児にとって、一番大切な事、必要な事は何かを考え、月々個別計画を立て保育を進めています。0歳児が安心して過ごせるように担当の保育士とゆっくり遊んだり、生活できるように同じ部屋で生活する1歳児とは時間差で部屋を使えるように工夫しています。はいはいしたり、ゴロゴロしたり、膝に座って絵本を読んでもらったり、言葉だけでなく表情をくみとり応答的な関わりとそうした時間を大切にし愛着関係が持てるようにしています。1歳児と同じクラスで過ごしていますが、年齢で全く違う活動をする時間も大切にして、クラス、テラス、廊下、戸外など様々な工夫して子ども達の中にストレスが起きないようにしています。また、保護者との連絡を密にし、園で過ごした様子や成長した姿など、丁寧に連絡ノートに記入し毎日やりとりしています。0・1歳児の保育士四人全員で協力し合い連携し合い保育を進めています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="891 193 936 225">■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <li data-bbox="891 316 936 347">■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <li data-bbox="891 438 936 470">■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <li data-bbox="891 561 936 593">■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○年齢ごとに年間計画や活動計画を作成し、それに沿って保育を進めています。3歳児は初めて集団生活を送る子も多いので、保護者との愛着関係も大切にしつつ、余裕を持ち無理なく園生活が送れるように心がけています。4歳児は園児の基本的な生活習慣が出来ているので、子どもが自らこれをしたいかこの遊びをしたか、という気持ちを育てられるよう子どもの様子を見極めながら、日々の保育を進めています。5歳児は保護者と夏祭りを楽しみ、その経験から秋祭りを自分たちで楽しみたいと考えて、計画し準備を進めていました。そんな様子をクラス便り、園便り等で発信しています。小学校との連絡会でも年長児の様子を伝えていきます。</p>
			⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="891 679 936 711">□ 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。 <li data-bbox="891 767 936 799">□ 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 <li data-bbox="891 855 936 887">□ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 <li data-bbox="891 943 936 975">□ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 <li data-bbox="891 1031 936 1062">□ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <li data-bbox="891 1118 936 1150">□ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 <li data-bbox="891 1206 936 1238">□ 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 <li data-bbox="891 1294 936 1326">□ 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>○安曇野市は県立こども病院があり、園内では年齢を問わず受診している園児がいます。障がいのある子の状況に配慮した個別計画を作成し、それに基づきながら、こどもの状況や変化にあわせ保育を進めています。集団で生活する中でパニックを起こしたり、一緒にいられなくなったりしたときには絵本の部屋などクールダウンの場所もあり、落ち着いてから集団に戻るといったような環境も整えられています。保護者との連携を密にし、医療機関とも連携し助言や相談を受けながら、保育を進めています。担任保育士に保護者からお子さんについての相談があった場合など市の指導員に相談し、共に形式検査をしてお子さんの現状を確認し合って、園児の成長を促していく努力をしています。研修等受けながら日々の保育に活かしています。</p> <p>○担当クラスに障がいの子はいない職員も自分の園の事として関わり方や保育の流れなど把握し、共通理解していくことが大切になります。園内で報告や研修を進めていきましょう。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
		⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。	○延長の保育室に移動の時はチェック表などマニュアルがありそれを守って進めています。延長保育士との連携を大切に、必要なことはボードに記入したり口頭で伝え、一人ひとり名前を確認しながら入室するようにしています。長時間保育園で過ごす子ども達がゆったりと過ごせるように家庭的な雰囲気づくりを心がけています。年齢が違う一人ひとりの子どもが自分の好きな遊びを楽しめるような工夫をし配慮しています。また、日々の保育の中で保護者へ伝えることがある場合は、信頼関係を大切に担当保育士が直接保護者と話ができるように連携し、配慮しています。 ○いつもの担当保育士が対応できないとき、休みの時などは、代替え保育士や様子を知る保育士と十分な連携を持って、延長保育士が保護者の納得いくような対応をすることが大切です。その連携がスムーズに出来る事が必要になります。	
	■			60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。			
	■			61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。			
	□			62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。			
	■			63 子どもの在園時間や生活リズムに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。			
	■			64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。			
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b)	□		65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。
	□				66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。		○小学校との連携や修学については見通しを持って計画し、入学を楽しみに出来るように進めています。小学校の担当教諭が園を訪問し、子どもの様子を見たり、担当保育士と話し合いを持ったり意見交換会等をして、一人ひとりの子ども達が安心して入学できるようにしています。小学校へ入学するにあたり、不安がある子には保護者と共に個別に就学相談をする機会を設け、市の担当者も含めて対応できるようにしています。 ○担当保育士ばかりで無く、保育園に勤務する保育士として、入学までの一連の流れは確認し共通理解を持つ事が大切です。
	□				67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。		
	□				68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。		
	□	69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。					
				■	70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	c)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 <input type="checkbox"/> 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 <input checked="" type="checkbox"/> 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 <input type="checkbox"/> 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○入園時に保護者に提出してもらった家庭の調べの書類や保護者への聞き取りなどで、一人ひとりの子どもの心身や健康状態を把握して既往症や体質など職員間で共通理解が出来るようにしています。朝の健康状態を観察し、気づいたことなどあります。保護者と確認を取るようになっています。子どもの体調悪化、けがなどについては、電話連絡をしたり、対面で状況説明をし、事後の状態についても確認しています。場合によっては担当保育士と園長も一緒に保護者への対応を行っています。乳幼児突然死症候群に関する知識を皆で周知し、特に未満時担当保育士は午睡時に必要な取組を行なっています。</p> <p>○保育園の保健に関する年間計画は季節によって必要な事など（感染症対策のために手洗い、うがいをする、虫刺されについて、保護者と連携していくために必要な事等）表にしておくと月案や週案に取り入れ易いです。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 <input type="checkbox"/> 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 81 家庭での生活に生かされ、保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○健康診断・歯科検診は年に2回行われ、検診結果は保護者に文書で知らせています。また、必要に応じて保護者に医療受診を進めています。衛生面を考慮して園では昼食後に1回、歯ブラシをしています。磨き残しや磨き辛い箇所がきれいに磨けるよう歯科指導を受けたり、未満児の子ども達には保育士が一人ひとりに仕上げ磨きをしています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<p><input checked="" type="checkbox"/> 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</p> <p><input type="checkbox"/> 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</p>	<p>○アレルギー疾患のある子どもに対してはアレルギー対応ガイドラインをもとにマニュアルを作成しています。それに沿って朝の会でその日の献立について確認し合い、提供時には給食室より一人分をトレーに分けて受け渡しをしています。その都度チェック表で確認し、誤食の無いようにしています。職員もアレルギー疾患、慢性疾患等について研修したり情報など伝え合ったりして、知識や情報を得たり、技術を習得するようにしています。万が一誤食があった場合には一人ひとりに合ったマニュアルがあり、それに沿って適切に対応するようにしています。</p> <p>○担当クラスにアレルギーの子どもがいないくても、どんな時でも対応出来るように意識を持って、知識の向上を図っていきましよう。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b)	<p><input checked="" type="checkbox"/> 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 91 食器の材質や形などに配慮している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</p>	<p>○豊かな食生活が送れるように食育計画を立て野菜を育てたり園庭の田んぼで稲作をしたり子ども達が自然に食に興味や関心が持てるようにしています。お年寄りの方達と田植えから教えてもらい、収穫した稲をテラスに干し、脱穀をしたり白米にする等、年長児が年間を通して行ない、それを調理してみんなで食べて楽しんでいます。その姿を小さい子ども達も興味を持って見ており、地域の方々を巻き込んで途切れることなく活動を継続することができ、有意義な食育活動になっています。園児の中には味が嫌いで食べられない子と食べず嫌い口にしないう子がいますが苦手な物は無理せず量を調整し、少しでも味わえるように励ましたり、声をかけたりしています。その様子を保護者に伝え、保護者と共有し合いながら進めています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<input type="checkbox"/> 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 <input type="checkbox"/> 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 <input type="checkbox"/> 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 <input checked="" type="checkbox"/> 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 <input type="checkbox"/> 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 <input type="checkbox"/> 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。	<p>○市の栄養士が献立を作成して、委託された調理員が園内で調理し、提供しています。食事の様子や反省点、残食など分かるように、日々保育士が子ども達の食事の様子を、マニュアル表に記入して調理員に提示しています。子ども達の気になった姿を伝えたと、いろいろアイデアを出し、食べやすく切り方を変えたり、味を工夫したりと丁寧に対応しています。調理室は廊下側が全面ガラス張りでも小さい子どもでも調理の様子を見ることができ、調理員も子ども達に親しみを持ち、子ども達も調理員に親しみを持ち食事を楽しみにする環境があります。離乳食の進み具合も一人ひとり違うので、年度途中でも次々と入園して来る0歳児については保護者と十分に連絡を取り合い、お粥の堅さから副食の柔らかさ、刻みの大きさなどきめ細かい調理方法を決め対応しています。また、調理員がクラスに入り食事の様子を見て、子ども達の食事をしている姿で気づいたことがあると担当保育士と話をし調理方法を変更したり、食材を考えたりと連携を密に取り子ども達が食事を楽しみに出来るようしています。保護者も安心、安全な食事に信頼を寄せています。</p> <p>○給食の食材についてや衛生管理などについて、気を配っていることなど保育士が知る機会があると良いでしょう。</p>
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<input checked="" type="checkbox"/> 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	<p>○3歳児以上はコドモンアプリを使い日々の保護者との連絡を取り合っています。欠席や早退、時間に登園できないなど、連絡の行き違いやミスがなくなり安心して保育を進められています。また、クラス便りや園便りで園の様子を伝え、情報共有をしています。未満児については、日々の園での遊びの様子、生活の様子、成長を細かく知らせるために連絡ノートを活用しています。また、朝の受け入れの時、夕方の降園の時などを使い保護者と対面で園の様子、子ども同士の遊びの様子など気づいた点や成長した姿を伝え、思いを共有し合うようにしています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 112 相談内容を適切に記録している。 <input type="checkbox"/> 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○保護者と信頼関係が築けるように、日々できるだけ連絡を密にし、登降園時の挨拶や対面での対応を大切にしています。一人ひとりの保護者との個別面談も年1回は行うようにしています。保護者からの相談を受けたときは、一人で回答するのではなく、園長や主任と相談し、返答したり、必要となれば相談機関を紹介するなど対応しています。また、発達についての相談は指導員とも連携し、様子を見ながら形式検査を取り入れたり、場合によっては医療受診に繋げたりしています。</p> <p>○相談を受けた職員が、園長や主任に相談するという流れを全職員と年度当初に確認しておくことも大切です。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 <input type="checkbox"/> 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 <input type="checkbox"/> 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○登園時には変わった様子がないか。顔色を見たり顔、手など出ている箇所のアザや傷がないか心身の状態を確認しています。また、発育測定の実施時や着替えの時など園児の変わった様子がないか等、観察しています。気づいた変化があった場合は園長、主任に報告相談し、必要ならば外部機関とも連携し適切に対応する事を認識しています。</p> <p>○マニュアルによって対応したり、マニュアルに沿った職員研修を行なうことで、いろいろな職務形態の職員がいる中でも職員全員に周知していくようになります。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○日案、週案、月案などで日々の保育を反省し、自己評価しています。その反省を次の日、次週、次月に活かしています。また、そうした反省を年間計画の反省に繋げ、次年度の年間計画の作成に活かしています。そして、自己評価を基に、自身の保育の専門性や保育実践の改善を目指そうとしています。また、年1回は園内で公開保育を実践し指導員や園の職員で勉強し合い、保育の継続性、実践の反省や評価をし、日々の保育の向上に努めています。</p> <p>○年に一度は第三者評価の「内容項目」をそれぞれの職員が行い自己評価する事で、保育の専門性の向上や、日々の保育に必要な知識向上、意欲に繋がられるでしょう。</p>